

第1回 F-REI 産学官ネットワーク・セミナーの開催について ～パネリストが決定しました！～

令和5年4月、福島国際研究教育機構（Fukushima Institute for Research, Education and Innovation, 通称F-REI）が、福島をはじめ東北の復興を実現するための夢や希望となるとともに、我が国の科学技術力・産業競争力の強化を牽引し、経済成長や国民生活の向上に貢献する、世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」を目指して設立されることになりました。

同機構においては、その研究開発成果を、福島をはじめ東北の復興に結びつけるため、広く企業や関係機関を巻き込みながら、実用化や新産業創出に着実につなげていくよう、産学官連携体制を構築することとされております。

そこで、産学官連携体制構築の機会とするため、令和5年1月13日にネットワーク・セミナーを開催することと発表しておりましたが、パネリストが決定しましたので改めて御案内申し上げます。

同機構で取り組む主な研究分野から一流の識者をお招きし、各分野の将来展望等について、分野横断的に御議論いただきます。共同研究や実証実験、産業化など、同機構との協働や連携に関心のある企業・団体におかれましては、当セミナーへ参加登録いただきますよう、お願いいたします。

【第1回セミナー】 ※参加費は無料です。

日時：令和5年1月13日（金）14:00～16:30

会場：虎ノ門ヒルズ森タワー4階 ホールB（東京都港区虎ノ門1-23-3）

内容：理事長予定者による講演「F-REI を核としたイノベーションの創出」（仮題）
ネットワーク・セッション 等

【お申し込み方法】

登録用紙やセミナー詳細を送付しますので、登録希望の方は下記までメールにてご連絡ください。なお、定員に達した場合、登録を締切りさせていただくことがございますので、お早めの登録をお願いいたします。

【参考】 機構（F-REI）の研究分野等については、別紙をご参照ください。

【お問合せ先・申込先】

復興庁 原子力災害復興班 川崎、金井

TEL：03-6328-0246 E-MAIL：g.freinetwork.v5f@cas.go.jp

第1回 F-REI 産学官ネットワーク・セミナー

日時：令和5年1月13日（金） 14：00～16：30

会場：虎ノ門ヒルズ森タワー4階 ホールB（東京都港区虎ノ門1-23-3）

次 第

1. 開会挨拶

2. 来賓挨拶

3. 関係省庁・団体紹介

4. 基調講演

山崎光悦 復興庁参与（福島国際研究教育機構 理事長予定者）
「F-REI を核としたイノベーションの創出（仮題）」

5. ネットワーキング・セッション

パネリスト

村上 弘記 氏

株式会社 IHI 技術開発本部 技監

一般社団法人日本ロボット学会 会長

飯田 聡 氏

株式会社クボタ 特別技術顧問

佐藤 純一 氏

東芝エネルギーシステムズ株式会社 水素エネルギー技師長

山下 俊一 氏

福島県立医科大学 副学長

高村 昇 氏

東日本大震災・原子力災害伝承館 館長

奥村 洋治 氏

株式会社フジタ 代表取締役社長

経済同友会 防災・震災復興委員会 副委員長

呉文繡（サンドラ・ウー） 氏

国際航業株式会社 代表取締役会長

国連グローバル・コンパクト ボードメンバー

モデレーター

入山 章栄 氏 早稲田大学大学院経営管理研究科

早稲田大学ビジネススクール 教授

6. 閉会挨拶

パネリスト・モデレーター 一覧

モデレーター



入山 章栄 氏

早稲田大学大学院経営管理研究科

早稲田大学ビジネススクール 教授

国際的な主要経営学術誌に論文を多数発表。メディアでも活発な情報発信を行っている。著書は「世界標準の経営理論」(ダイヤモンド社) 他

① ロボット分野



村上 弘記 氏

株式会社 IHI 技術開発本部 技監

一般社団法人日本ロボット学会 会長

1987 年石川島播磨重工業株式会社(現株式会社 IHI) 入社。入社以来、ロボット・メカトロニクス技術の応用システムの研究開発に従事。現在は、幅広く自動化システム、自動運転システムに関する開発に取り組んでいる。

② 農林水産業分野



飯田 聡 氏

株式会社クボタ特別技術顧問

1980 年久保田鉄工(現株式会社クボタ) に入社し、トラクタ技術部第二開発室長、建設機械技術部長、建設機械事業部長、クボタヨーロッパ S. A. S. 社長、クボタトラクターCorp. 社長、機械海外本部長、農業機械総合事業部長、研究開発本部長、取締役専務執行役員を経て、2018 年より特別技術顧問。

③ エネルギー分野



佐藤 純一 氏

東芝エネルギーシステムズ株式会社 水素エネルギー技師長

1992 年に株式会社東芝に入社。

2019 年に東芝エネルギーシステムズ株式会社 水素エネルギー事業統括部にて事業開発、技術開発に従事し、現在は、同社水素エネルギー技師長として、水素エネルギー事業の技術統括。

④ 放射線医療・創薬分野



山下 俊一 氏

福島県立医科大学副学長

量子科学技術研究開発機構放射線医学研究所所長

長崎大学名誉教授

長崎大学医学部卒業後、チェルノブイリ医療支援活動等を長年にわたり指導。2011年3月福島原発事故後には福島県放射線健康リスク管理アドバイザーや内閣官房原子力災害専門調整官等、2013年4月より長崎大学理事・副学長を歴任し、現職。

⑤ 原子力災害に関するデータや知見の集積・発信



高村 昇 氏

長崎大学原爆後障害医療研究所

国際保健医療福祉学研究分野教授

令和2年4月より東日本大震災・原子力災害伝承館 館長に就任。川内村、富岡町、大熊町や双葉町において帰還する住民とのリスクコミュニケーションや長崎大学学生等の研究指導（フィールドワーク）及び復興支援活動に精力的に取り組んでいる。

奥村 洋治 氏

株式会社フジタ代表取締役

経済同友会 防災・震災復興委員会 副委員長

1983年入社、国際事業部香港営業所長、国際事業部長や営業本部長を経て2015年より現職。2019年6月には経済同友会 防災・震災復興委員会 副委員長に就任。



吳文繡（サンドラ・ウー） 氏

国際航業株式会社代表取締役会長

国連グローバル・コンパクト・ボード ボードメンバー

2013年に国際航業株式会社の代表取締役会長に就任。2018年より国連グローバル・コンパクト・ボードのボードメンバー、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン理事。民間ビジネスを通じて、防災やSDGsを推進するための国連の活動に貢献。



福島国際研究教育機構 (令和5年4月設立予定) の概要

別紙

福島国際研究教育機構 (以下「機構」) は、**福島をはじめ東北の復興を実現するための夢や希望**となるものとともに、**我が国の科 技術力・産業競争力の強化を牽引し、経済成長や国民生活の向上に貢献する、世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」**を目指す。

内閣総理大臣
文部科学大臣
厚生労働大臣
農林水産大臣
経済産業大臣
環境大臣

主務大臣として共管

7年間の中期目標・中期計画

※機構が長期・安定的に運営できるように必要な予算を確保

福島国際研究教育機構 (F-REI)

Fukushima Institute for Research, Education and Innovation
(福島復興再生特別措置法に基づく特別の法人)

理事長予定者: 山崎光悦 (前金沢大学長)

理事長のリーダーシップの下で、**研究開発、産業化、人材育成等**を一体的に推進

- 研究者にとって魅力的な研究環境 (国際的に卓越した人材確保の必要性を考慮した給与等の水準などを整備)
- 若手・女性研究者の積極的な登用

国内外の優秀な研究者等

将来的には数百名が参画

研究開発

- 福島での研究開発に優位性がある上記5分野で、被災地や世界の課題解決に資する国内外に誇れる研究開発を推進

産業化

- 産学連携体制の構築
- 実証フィールドの積極的な活用
- 戦略的な知的財産マネジメント

人材育成

- 大学院生等
 - 地域の未来を担う若者世代
 - 企業の専門人材等
- に対する人材育成

司令塔

- 既存施設等に横串を刺す協議会
- 研究の加速や総合調整のため、一部既存施設・既存予算を機構へ統合・集約

機構が取り組むテーマ ※新産業創出等研究開発基本計画 (R4.8.26策定)

【①ロボット】

廃炉にも資する高度な遠隔操作ロボットやドローン等の開発、性能評価手法の研究等



ドローン



遠隔操作ロボット

【②農林水産業】

農林水産資源の超省力生産・活用による地域循環型経済モデルの実現に向けた実証研究等



生産自動化システム等の実証



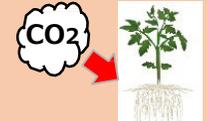
有用資源の探索・活用

【③エネルギー】

福島を世界におけるカーボンニュートラル先駆けの地にするための技術実証等



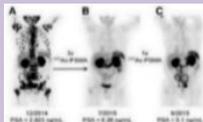
水素エネルギーネットワークの構築・実証



ネガティブエミッション技術

【④放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用】

放射線科学に関する基礎基盤研究やR Iの先進的な医療利用・創薬技術開発、超大型X線CT装置による放射線産業利用等



新しいIRI医薬品によるがん治療



超大型X線CT装置 (ものづくりDX)

【⑤原子力災害に関するデータや知見の集積・発信】

自然科学と社会科学の融合を図り、原子力災害からの環境回復、原子力災害に対する備えとしての国際貢献、更には風評払拭等にも貢献する研究開発・情報発信等



<機構及び仮事務所の立地>

円滑な施設整備、周辺環境、広域波及等の観点から決定

本施設: 浪江町川添地区

仮事務所: 浪江町権現堂地区公有施設

福島国際研究教育機構の設置効果の広域的な波及へ

- 機構を核として、市町村、大学・研究機関、企業・団体等と多様な連携を推進
- 浜通り地域を中心に「世界でここにしかない研究・実証・実装の場」を実現し、国際的に情報発信

機構の詳細については復興庁HP内の「福島国際研究教育機構の基本構想」「新産業創出等研究開発基本計画」をご覧ください。

福島国際研究教育機構を核とした浜通り地域等との広域連携による効果波及について

(基本的考え方)

- ◆ 福島国際研究教育機構の事業は、本施設の立地近接地域だけでなく、復興に取り組む地域全体（浜通り→福島県全域→被災地全体）にとって「創造的復興の中核拠点」として実感され、その効果はさらに全国へと**広域的に波及**するものでなければならない
- ◆ まずは、機構が取り組む5分野に関連する**既存の研究拠点や教育機関等のシーズ**だけでなく、地域における**機構への期待や具体的なニーズ**を、様々な**対話を通じて丁寧に把握**していく
- ◆ それを踏まえ、機構を核として、地域の市町村や住民、企業・団体等との間で様々な形の**パートナーシップで連携**することが重要
- ◆ **浜通り地域等を中心に、機構の施設の中だけでなく、施設の外も含めて広域的なキャンパスとしてとらえ、「世界でここにしかない多様な研究・実証・社会実装の場」を実現し、国際的に情報発信する**
- ◆ これにより、地域における産業の集積、人材の育成、暮らしやすいまちづくり等を進め、福島・東北の創造的復興、さらには日本創生を牽引するものとする

(機構を核としたパートナーシップによる事業展開のイメージ例)

